



題字 井口 文章
再刊 第238号
印刷・発行
錦城高等学校新聞
委員会

みんなでつくる
錦城高校新聞

(特集)全国高等学校総合文化祭
優秀校東京公演



宮城県のゆるキャラ むすび丸

伝える 国立劇場の夏

第28回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演特集

今年で28回目を迎えた全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演。この夏、みやぎ総文祭を飾った若者の力がこころで再び発揮された。

(本校編集室、昭和第一学園高校共同取材)

一音一音を大切に
宮城県登米市にある佐沼高校の箏曲部は部員数5人で、

全国高等学校総合文化祭の出場はなんと16回目。優良賞も2回受賞している。そんな佐沼高校箏曲部で今回「虹」(作

門田さんが演奏した曲「乱」のリズムをもとに作られた独特なハーモニーの曲だ。リハーサルを終えた感想を聞く

愛知県から来た日本福祉大学付属高等学校の伊藤敏祐くん(3年)、柴田葉奈さん(3

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞く、仲間と協力し合えるところが大好きだ



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校

今年演奏する「虹」は、以前門田さんが演奏した曲「乱」のリズムをもとに作られた独特なハーモニーの曲だ。リハーサルを終えた感想を聞く

愛知県から来た日本福祉大学付属高等学校の伊藤敏祐くん(3年)、柴田葉奈さん(3

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞く、仲間と協力し合えるところが大好きだ

プロの記者に聞く東京公演

完成度はプロ顔負け
今回の東京公演に取材に来ていた朝日新聞東京本社文化記者江川夏樹さんに取材することができた。普段は演劇中心の取材をしていて、俳優や演出家に話を聞くことも多いという江川さん。東京公演はプロ顔負けの完成度だ



高校生の姿が印象的だと江川さん

自分が楽しむだけでなく受け手がどう感じるかを大切にしていたそう。この部活は震災時に一時期部員がいなくなりました。それでも部活の伝統、そして日本音楽の伝統をつないできた、その話が印象的だったと語る。埼玉県秩父農工化学高校演劇部に取材するときは、高校生がどんな演劇をするのかに注目し

国立劇場に取材に来ていたのは高校生の視線を忘れないこと。高校生に取材をするときは「挨拶と礼儀が大事」「先輩と後輩の仲が良い」という一見単純な答えが多いという。しかしその言葉に至るまでの経緯まで細かく聞くと、違いが現れることが多い。それぞれ違うストーリーがある。それを引き出すのが役目です」と記者として仕事のコツを伝えてくれた。(湊・鶴)



公演ニュース発行の経緯

8年前から公演ニュース発行のいきさつを昭和第一学園高校元教諭の松井孝二さんと、錦城高校元教諭の松井巖さんに聞いた。今年で第10号になる公演ニュースでは様々な人にスポットライトを当てている。両先生は「取材をする生徒にとっていい経験になるし、取り上げられる方にとっても光が当たることでやりがいになるだろうと思います」と意義を語った。公演の裏方で活躍する人達に注目だ。



朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハーサルはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかしいい写真はなかなか撮れない。リハーサルが終わったと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。良い記事が書けそうだと、そんなこんなで仕事が終わる。帰りの電車の中でふと考える。朝から晩まで何のために私たちがこの仕事をしているのか。でも昼間のことを思い出し答へはすぐに出た。「あの感動を誰にも伝えたい！」その一心で次も頑張れるような気がした▼国立劇場で行われた全国総合文化祭東京公演。記録係として公演ニュースを作るために参加した私たちが錦城高校新聞委員会編集部に。朝早くから仕事を立て込み、大変なこともたくさんあったが、その分得るものもたくさんあり、とてもやりがいがある仕事だった。この貴重な経験を普段の取材や来年に活かしていきたい。(蘭)

音に差がついてしまったら、一音一音を大切に、技術面で差をつけるようにした

今年演奏する「虹」は、以前門田さんが演奏した曲「乱」のリズムをもとに作られた独特なハーモニーの曲だ。リハーサルを終えた感想を聞く

愛知県から来た日本福祉大学付属高等学校の伊藤敏祐くん(3年)、柴田葉奈さん(3

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞く、仲間と協力し合えるところが大好きだ

今年演奏する「虹」は、以前門田さんが演奏した曲「乱」のリズムをもとに作られた独特なハーモニーの曲だ。リハーサルを終えた感想を聞く

愛知県から来た日本福祉大学付属高等学校の伊藤敏祐くん(3年)、柴田葉奈さん(3

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞く、仲間と協力し合えるところが大好きだ

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハーサルはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかしいい写真はなかなか撮れない。リハーサルが終わったと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。良い記事が書けそうだと、そんなこんなで仕事が終わる。帰りの電車の中でふと考える。朝から晩まで何のために私たちがこの仕事をしているのか。でも昼間のことを思い出し答へはすぐに出た。「あの感動を誰にも伝えたい！」その一心で次も頑張れるような気がした▼国立劇場で行われた全国総合文化祭東京公演。記録係として公演ニュースを作るために参加した私たちが錦城高校新聞委員会編集部に。朝早くから仕事を立て込み、大変なこともたくさんあったが、その分得るものもたくさんあり、とてもやりがいがある仕事だった。この貴重な経験を普段の取材や来年に活かしていきたい。(蘭)

息の止まる感動を

静岡県立三島北高校 箏曲部部長の杉山沙里さん(3年)は「リハーサル後「終わった時に息が止まるような感動を味わってほしい」と語った。今回3年生で演奏する「箏のための組曲」では、より表現を豊かにするために、部員が物語を考えたと。人間に恋をしてしまい、魚に止められるも人魚は聞かず、最後には泡に変わってしまうという物語だ。

練習は週に6日、平日は3時間、休日は6時間練習している。練習の様子について「おしとやかと思われがちですが、みんな個性が豊かです。練習は体力を使いますが楽しいです」と頷きながら、3年生は16人いる。例年よりも人数が少ないので、「人数が少ない中で、最後2人は、後輩たちにも国立劇場に出演してほしい」と微笑んだ。(巴・碧)

物語を考えて表現豊かに

夏の終わりの『白紙提出』



日立第一高校演劇部は、「白紙提出」というオリジナルの劇を演じた。夏休み最終日、勉強会をしようと集まった高校生5人組が、ふとしたことから「気持ち悪い」互いのコンプレックスに気づき、自分たちの役割について「色々な感情をもつ役だからこそ、それを表現するのが難しかった」と、部長で演出も担当している磯前千春さん(3年)と、主人公役の福島駿くん(2年)に話を聞いた。

この劇は、道具や衣装から演出、振り付けまですべて生徒によって作られていて、シナリオも部員で考えたそうだ。「みんないつも部活のことを考えている生には本当に助けていただき」と磯前さんは話した。(湊・巴)

舞台裏で活躍する卒業生

錦城高校48回生の久保田敬子さんは、現在国立劇場の映画や舞台のパブリックを制作する編集企画室で働いている。パブリックは映画や音楽専門の方に文章を書いてもらい、編集して作るという。仕事をしながら楽しかったことは、パブリックが完成し配られるときだ。「みなさん最後は久保田さんへこれから国立劇場の伝統芸能を保存して浸透させていくことを意識していきます。伝統芸能を見たことのない人にも、文章を通して魅力を伝え、面白く思ってもらいたいですね」と話した。(英)

大人顔負けの鬼剣舞を披露

郷土芸能の「鬼剣舞」を披露する岩手県立北上翔南高等学校の鬼剣舞部部長の小原夏海さん(3年)に話を聞いた。正式には70分間の剣舞だが、総合文化祭では時間制限があるため、13分間になるように構成を工夫したという。小原さんは小学校4年生の時に初めて見た「鬼剣舞」に心を奪われ、高校から習い始めたという。

地元の夏祭りでは毎年鬼剣舞を披露し、高校生らしい鬼剣舞を見てもらうという機会と



迫力ある動きで観客を魅了する

「鬼剣舞」は、鬼の姿を演じる。鬼は、鬼の顔をした鬼剣舞の衣装を着た。鬼剣舞の衣装は、鬼の顔をした鬼剣舞の衣装を着た。鬼剣舞の衣装は、鬼の顔をした鬼剣舞の衣装を着た。



全国の魅せる演舞、集う



↑2日目のオープニングは、西山学院高校による宮城蔵王の「雷太鼓」(上)、そして三宅島から明星学園の「神着神輿太鼓」(下)

高校生に元気をもらえます。1日目の公演後に会場の外にいた遠藤琢矢さん、竹田陽介さん、仲長康行さんの3人に話を聞いた。毎年夏は東京公演を楽しみにしていると話した。錦城高校からは、千葉県から来た遠藤さん、東京公演に来るのはこれが7年目だという。「高校生はエネルギーが豊富です。元気をもらえます」と語る。高校野球だけじゃなく、こんな素晴らしいものがあるのだ。演劇などで、高校生が答えのない問題を解決しようと頑張っている姿を見ると、自分自身も頑張ろうと思えるという。

観客インタビュー

竹田さんは、演劇だけでなく郷土芸能や吹奏楽などもあるのが来たら楽しめると語る。前半の堅い日本音楽の前に、今年が親しみやすいフラダンスがあつて良かったという。「OPも毎年違うから楽しみなんです」。

学生がチケットを切る、パブリックを配布する、ドアを開閉する、というように学生が東京公演を作っており、当に全部楽しんでいますと遠藤さんと話した。(稿・英)

都立杉並高校の宮澤ほのかさん(3年)と岩瀬真子さん(2年)

は、今回の東京公演で受付係を担当した。主な仕事は、招待された方に座席番号が書かれたカードを渡すことだ。「受付というのはお客さんが最初に見るところなので、どんな状況でも笑顔でやさしいようにしています」と2人は真剣に話した。また、お客さんが「お疲れさま」と声をかけてくれるときに、やって良かったと感じるそうだ。ただ、お客さんに自分が把握しきれてないことを聞かれたときは対応に困ってしまうという。「わからないことがあったら先生に聞くのですが、それでもお客さんを待たせてしまうため申し訳ないです」と宮澤さんは話す。次に向けて2人は、「混乱してしまう場面があったので、反省点を活かし、もう少し落ち着いてお客さんに接していきたいです」と語った。(蘭)

支える人々

会場2階では呈茶を行っていた。担当する高校の一つである蒲田女子高校茶道部の野川桂織さん(2年)、田邊羽純さん(2年)、田村愛衣香さん(2年)に話を聞いた。

「のんびりした空間で、あたたかい時間をすごせるのが茶道の魅力」という田村さん。田邊さんと田村さんが茶道を始めたのは、高校の茶道部に入部してから。野川さんは、幼稚園の授業で茶道を習ったそうだ。「しばらくやってなかったのですが、高校に入ってから茶道部に入部しました」と笑顔を見せる。田邊さんは日本文化や作法を学べるのが魅力だ。「高齢の方からお子様まで交流できるのは茶道ならでは」とも語った。案内する際にはお客様を視察し、小さい子には少しぬるめのお茶を出したり、足の悪い方の荷物を持って席まで案内したりと、相手が必要としていることを見極めるように心掛けたそう。3人は茶道の所作は難しいと話すが、お茶を飲んだ人に「おいしい」と言ってもらえると嬉しくなると微笑んだ。(加)



「何度見ても飽きません」と演劇部の2人

~第28回総文祭優秀校東京公演 出演校一覧~

東京	東京都立町田工業高校	1日目OP 4校合同フラダンス
東京	東京都立第四商業高校	
東京	日本芸術学園日本芸術高校	
東京	川村学園中学校・高校	
宮城	宮城県立佐沼高校	日本音楽「虹」
愛知	名古屋市立菊里高校	日本音楽「箏のための展」
愛知	日本福祉大学付属高校	郷土芸能「絆 ~和太鼓組曲『海嶺』より」
広島	広島県立加計高校芸北分校	郷土芸能「八岐大蛇」
岩手	岩手県立北上翔南高校	郷土芸能「鬼剣舞」
愛知	愛知県立松蔭高校	郷土芸能「神楽太鼓組曲『祈り』」
埼玉	埼玉県立秩父農工科学高校	演劇「流星ピリオド」
沖縄	沖縄県立向陽高等学校	演劇「HANABI『文化祭大作戦』より」
茨城	茨城県立日立第一高校	演劇「白紙提出」
兵庫	兵庫県立東播磨高校	演劇「アルプススタンドのはしの方」
東京	東京都立紅葉川高校	特別公演 演劇「つるのおんがえし」
静岡	静岡県立三島北高校	日本音楽「箏のための組曲」
東京	創価学園創価高校	日本音楽「大河」
東京	明星学園中学校・高校	2日目OP「三宅」
宮城	萌愛学園西山学院高校	2日目OP「雷太鼓」